

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

教育研究目標6「大学院の充実」

主管部局	学長室	担当部局	学長室
------	-----	------	-----

(タイトル) 大学院の充実
(狙い内容) 世界的な研究拠点形成のため、大学院教育の充実を図り、若手研究者の育成に努める。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

質(意欲と学力)を備えた入学者を確保する。

2. 達成度評価

評価指標	各課程の全研究科定員充足率の平均	評価尺度	A : 1.0以上 B : 0.81~1.0未満 C : 0.61~0.80 D : 0.00~0.60
------	------------------	------	---

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点			博士課程前期課程 (M)C 博士課程後期課程 (D)C 専門職学位課程 (P)C	(M)C (D)C (P)C	(M)B (D)B (P)B	(M)B (D)B (P)B	(M)B (D)B (P)B	(M)B (D)B (P)B
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D		博士課程前期課程 (M)C 博士課程後期課程 (D)C 専門職学位課程 (P)C	実績	(M)C (D)D (P)C			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)				(M)0.61~0.80 (D)0.00~0.60 (P)0.61~0.80			

【2017年度の進捗状況について】

2017年4月から大学院研究科委員長会を開催し大学院の課題を中心に審議している。
2017年4月に大学院検討WGを立ち上げ、施策の策定に着手した。
大学院検討WGで、①大学院学費の見直しと、②大学院の活性化(大学院教員インセンティブ)、に関する2つの検討WGを立ち上げ検討することとなった。
①②については、詳細が決まり次第、新規の行動計画として追加する。
他方、学院の長期戦略においても、研究者の輩出、理系研究室の充実、本学出身者比率の増加、高度職業人の養成を中心に、長期的な視点でめざす方向性と基本方針を検討しており、10月中旬には長期戦略の案について、学内で中間報告が行われた。

2017年度 of 取組み状況の確認

2017年度 of 取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→	(はい)・いいえ
---------------------------------	---	----------

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・世界的な研究拠点形性のため、大学院教育の充実を図り、若手研究者の育成を図るため、大学院の在り方について全学的な視点から検討を加えるため、大学院検討WGで検討作業が行われていますが、大学院の定員充足が当面の課題であるようです。博士課程前期・後期、専門職大学院のいずれも、定員の60%を切っており、これを2021年度までには80%の充足率に高めることが目標となっているようです。しかし、大学院進学希望者数が伸び悩み傾向のある我が国の進学状況の中で、理工系の博士課程前期を除くと、目標の達成は容易ではありません。今後、大学院検討WGでどのような検討がなされるか注目したいと思います。伸び悩みの原因の分析は勿論のこと、他大学の動向や大学院に期待する社会的環境の調査は不可欠です。とりわけ、文科系の研究科が多い貴学にとっては、学問の動向もさることながら、大学院に対する社会のニーズを把握し、場合によれば、実績に合わせて定員の見直しを図るとか、研究科の再編や統合も視野に入れる必要があると思います。大学院検討WGが手掛けるべき最も重要な課題は、学部段階での学士課程教育と大学院教育との相対的な役割分化を明確にすることだと思います。大学院が学部の上に設置されている煙突形組織になっているため、「高度な」という修飾語は付けられているものの、学部教育と類似した教育活動が同じ教員集団によって展開されているのが実状です。大学院とは何か、大学院は本来どうあるべきなのか、14研究科からなる大学院の組織や制度は現在のままでよいのか。非常に難しい問題ですが、この議論から検討を始めてほしいと思います。(A)
- ・日本の役所や企業において、大学院修了者の受入が進まず、大学におけるポストの増加が見込まれない中で、特に文系の大学院は、その役割・規模の再検討が求められています。期待される役割に応じた規模に収容定員を修正して行くことも望まれると考えます。(B)
- ・大学院の課題を検討する体制が整えられてきており、これから本格的な検討が進むことが望まれます。(C)
- ・大学院検討WGなどで具体的に活動が始まるとのこと、その進捗に期待したいと思います。(D)
- ・2017年度の研究科委員長会の新設や2018年度からの大学院課の新設を踏まえた目標設定等の修正の必要がないかどうかの検討が期待されます。(E)
- ・スピード感をもって今後進められることを期待します。
- ・また大学院活性化WGとして2つのWGが立ち上がる予定のようですが、大学教員インセンティブや学費だけでなく、大学院生の修学支援、研究支援や就職支援など学生目線での活性化策や支援策が今後さらに検討されることを期待します。(F)
- ・学院の長期戦略と歩調を合わせた行動計画の策定が求められます。(G)
- ・大学院研究科委員長会において、様々な課題が議論されていることと思いますが、今後、具体的な施策が実施され、大学院を取り巻く問題がスピーディ且つ着実に改善していくことを期待しています。(I)
- ・大学院の充実について、検討のためのWGが立ち上げられたことは評価できます。
- ・学院の長期戦略でも長期的な方向性と基本方針が検討されているということですから、それらがしっかりとリンクし、今後具体的な計画、施策が策定され、大学院の充実が図ることが期待されます。(J)
- ・行動計画①の進捗が遅れていることについて、必要に応じて対応策を検討し取り組みをすすめてください。(K)